

平成 19 年度 医学部 教室別業績集（追加）目次

解剖学教室（I）	…	2
生化学教室（I）	…	3
第一外科学教室	…	5
薬理学教室	…	2 3
臨床検査学教室	…	3 4
心臓血管外科学教室	…	3 8
衛生学公衆衛生学教室	…	4 3
救急医学教室	…	4 4
整形外科学教室	…	4 6
病理学教室	…	4 7

（順不同）

解剖学教室（I）

平成 19 年度業績

* 平成 18 年度に記載のため削除してください。

口演

1. Borke J.L.¹, Amano K & McNeil P.L.¹ (¹Medical College of Georgia, Augusta, USA) :
Activation of Gene Expression by Toothbrushing Induced Cell Wounding. IADR2007, New Orleans, 2007.3.25-27. (追加)

* 修正部分が有ります。

その他

17. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第 1 回目 (研究技術と方法) . 医道の日本 772 : 262-263, 2008.
19. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第 2 回目 (腎愈) . 医道の日本 773 : 105-111, 2008.
20. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第 3 回目 (大腸愈) . 医道の日本 774 : 196-201, 2008.

生化学(I)教室

平成 19 年度

I. 口演(学会等)

1. Nakajo A¹, Khoshnoodi J², Takenaka H, Sekine Y¹, Kurayama R¹, Noriko I¹, Tryggvason K³, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Medicine, Vanderbilt University School of Medicine, ³Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institute): The protective role of cyclosporin A (CsA) on hypoglycosylated nephrin formation induced by hypoxia. 14th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Budapest, Aug 31-Sep 4, 2007.
2. 誉田晴夫:Na⁺/K⁺-ATPase への K⁺結合の熱力学的性質. 第 30 回日本分子生物学会第 80 回日本生化学会合同大会, 横浜, 平成 19 年 11 月 14 日.
3. 田原義和, 西川幸希¹, 宍道暢子, 林雄太郎(¹京大・理・生物物理):腎 Na⁺/K⁺-ATPase オリゴマー構造の電子顕微鏡による観察. 第 30 回日本分子生物学会第 80 回日本生化学会合同大会, 横浜, 平成 19 年 11 月 14 日.
4. 田原義和, 宍道暢子, 林雄太郎:ブタ腎 Na⁺/K⁺-ATPase オリゴマーの電子顕微鏡観察. 第 45 回日本生物物理学会, 横浜, 平成 19 年 12 月 21 日.
5. 川崎一則¹, 小林恵美子¹, 青山一弘², 田原義和, 林雄太郎(¹産業総合技術研究所, ²日本 FEI(株)):超高真空フリーズレプリカによる Na⁺/K⁺-ATPase の電子顕微鏡観察. 第 45 回日本生物物理学会, 横浜, 平成 19 年 12 月 21 日.

II. 論文

1. Kobayashi T, Tahara Y, Takenaka Y, Mimura K¹ & Hayashi Y (¹Dept. of Environmental Security System, Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba Institute of Science): Na⁺ and K⁺-Dependent Oligomeric Interconversion among $\alpha\beta$ -Protomers, Diprotomers and Higher Oligomers in Solubilized Na⁺/K⁺-ATPase. J. Biochem. 142: 157-173, 2007.
2. Nakajo A¹, Khoshnoodi J², Takenaka H, Hagiwara E, Watanabe T³, Kawakami H⁴, Kurayama R¹, Sekine Y¹, Bessho F¹, Takahashi S⁵, Swiatecka-Urban A⁶, Tryggvason K⁷, Yan K¹ (¹Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Medicine, Division of Nephrology and Hypertension,

Vanderbilt University, ³Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ⁵Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine, ⁶Department of Cell Biology and Physiology, University of Pittsburgh School of Medicine, ⁷Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institute): Mizoribine corrects Nephron Biogenesis by Restoring Intracellular Energy Balance. J Am Soc Nephrol 18: 2554 –2564, 2007.

3. 菅田晴夫: Na⁺/K⁺-ATPase とオリゴマイシンの相互作用. 杏林医学会誌. 38:29-36, 2007.

第一外科学教室

19年度業績

I. 口演

- 1) 竹内弘久、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：抗凝固療法症例における鼠径・大腿ヘルニアの治療に関して.第5回日本ヘルニア研究会,浜松,平成19年4月7日.
- 2) 松岡弘芳, 正木忠彦, 杉山政則, 跡見裕: 下部進行直腸癌における自律神経切除と排便機能に関する検討. 第107回 日本外科学会総会. 大阪 平成19年4月10-12日
- 3) 木暮道夫、太田重久、井手博子、長谷川浩、杉山政則：高齢者・超高齢者の手術適応. 第107回日本外科学会定期学術集会、大阪、平成19年4月11日.
- 4) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：80歳以上の高齢者早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術は妥当か?.第107回日本外科学会定期学術集会,大阪,平成19年4月13日.
- 5) 武井宏一(杏林大学 消化器一般外科), 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: イレウス手術症例の術前診断における MR intestinography および multidetector CT の有用性に関する検討. 第107回日本外科学会総会、大阪、平成19年4月11-13日.
- 6) 長尾玄, 柳田修, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 上部消化管穿孔に対する腹腔鏡下手術の有用性についての検討. 第107回日本外科学会総会、大阪、平成19年4月11-13日
- 7) Matsuoka H, Mori T, Masaki T, Takei K, Sugiyama M, Atomi Y, Haradome H.
Laparoscopic adhesiolysis for bowel obstruction: preoperative usefulness of cine

magnetic resonance imaging. Ann. Meet of Soc. for American Gastrointestinal Surgeons (SAGES), Las Vegas, April 18-23, 2007.

- 8) 跡見裕：日本消化器病学会の更なる発展に向けて．第 93 回日本消化器病学会総会，青森，平成 19 年 4 月 20 日．
- 9) 鈴木裕、杉山政則、跡見裕：膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）の長期成績に関する検討－全国調査の解析より．第 93 回日本消化器病学会総会，青森，平成 19 年 4 月 21 日．
- 10) 杉山政則：教育講演、膵嚢胞性疾患．第 93 回日本消化器病学会総会、青森、平成 19 年 4 月 22 日．
- 11) 阿部展次、杉山政則、跡見裕（杏林大・医・外科）：早期胃癌リンパ節転移危険群に対する究極の低侵襲治療の試み－ESD と腹腔鏡下リンパ節郭清術のコンビネーション－．第 73 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、平成 19 年 5 月 9 日．
- 12) 松岡弘芳、正木忠彦、杉山政則、跡見裕：超音波内視鏡(EU シンポジウム)による診断・治療の最前線：超音波内視鏡と直腸内コイル MRI による直腸腫瘍術前診断能の検討．第 73 回 日本消化器内視鏡学会総会． 東京，平成 19 年 5 月 9-11 日．
- 13) 鈴木裕、杉山政則、跡見裕． IPMN の内視鏡診断の現状と問題点 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN)治療方針決定に有用な画像診断は?第 73 回日本消化器内視鏡学会総会，東京，平成 19 年 5 月 10 日．
- 14) 跡見裕：胃癌化学療法における Docetaxel の有用性について－基礎から臨床へ．Taxotere 発売 10 周年記念胃癌講演会，東京，平成 19 年 5 月 11 日．
- 15) 木暮道夫、太田重久、井手博子、長谷川浩、杉山政則、高橋純子：PEG 造設後合併症に

についての検討. 第 73 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、平成 19 年 5 月 16 日.

16) Matsuoka H, Masaki T, Sugiyama M, Atomi Y. Preoperative staging for rectal cancer.

2nd. Ann Meet of Colorectal Disease Symposium, Tokyo, May 16, 2007.

17) 跡見裕: 肝内結石症. 日本消化器病学会北海道支部第 100 回例会記念 特別講演. 札幌市,

平成 19 年 5 月 26 日.

18) 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕. 膵管内乳頭粘液性腫

瘍 (IPMN) 治療方針決定における各画像診断の有用性. 第 19 回日本肝胆膵外科学会総
会, 横浜, 平成 19 年 6 月 8 日.

19) 跡見裕: 肝内結石症の診療をめぐって. 第 89 回日本消化器病学会九州支部例会, 福岡市,

平成 19 年 6 月 9 日.

20) 跡見裕: 肝内結石症の診療をめぐって. 第 83 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会, 福岡

市, 平成 19 年 6 月 9 日.

21) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕: 早期胃癌 ESD クリ

ニカルパスの有用性. 第 84 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 19 年 6 月 9 日

22) 長尾玄、阿部展次、竹内弘久、松岡弘芳、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕:

早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) 後の内視鏡サーベイランスの重要性. 第
84 回日本消化器内視鏡学会関東地方会、東京、平成 19 年 6 月 9 日

23) Masaki T: Extended lymphadenectomy in rectal cancer surgery. 2nd Colorectal

Disease Symposium in Tokyo, Tokyo, 16 June, 2007.

24) 柳田 修、長尾玄、呉屋朝幸、跡見裕: 高齢者食道癌に対する治療選択とその妥当性—非

切除の是非—. 第 61 回日本食道学会学術集会、横浜、平成 19 年 6 月 21—22 日.

- 25) 阿部展次、竹内弘久、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕（杏林大・医・外科）：全胃温存を目指した早期胃癌に対する新しい診断/治療手技—ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術． 第 32 回日本外科系連合学会学術集会、東京、平成 19 年 6 月 22 日．
- 26) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌EMR適応拡大病変に対する低侵襲治療 ESDの妥当性について.第32回日本外科系連合学会.東京，平成19年6月22日．
- 27) 鈴木裕、小林敬明、佐藤和典、阿部展次、松岡弘芳、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕． 拡張主膵管内を充満発育した低分化型管状腺癌の 1 例． 第 38 回日本膵臓学会総会、福岡、平成 19 年 6 月 28 日．
- 28) 中里徹矢,阿部展次,堀合真市,高和正,植木ひさよ,竹内弘久,柳田修,杉山政則,跡見裕：魚骨胃穿通による膵膿瘍の一例.第38回日本膵臓学会大会,福岡,平成19年6月28-29日．
- 29) 杉山政則：膵管内乳頭粘液性腫瘍の治療方針． 第 10 回日本消化器病学会関東支部教育講演会、千葉、平成 19 年 7 月 14 日．
- 30) 松岡弘芳、正木忠彦、武井宏一、佐藤和典、植木ひさよ、杉山政則、跡見裕． 下部消化管術後の機能評価と術式選択 超低位前方切除術後排便機能に関する臨床生理学的検討 J 型結腸囊 vs. coloplasty. 第 62 回 日本消化器外科学会総会． 東京、平成 19 年 7 月 18-20 日．
- 31) 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕． 分枝膵管型膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)のガイドラインの有用性． 第 62 回日本消化器外科学会総会、東京、平成 19 年 7 月 18 日．

- 32) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：当科における早期胃癌ESDの治療成績.第62回日本消化器外科学会定期学術総会,東京,平成19年7月18日
- 33) 柳田 修、杉山政則、呉屋朝幸、跡見裕：当科に於ける高齢者食道癌に対する非外科的治療の成績—切除しない選択の是非—. 第 62 回日本消化器外科学会定期学術集会、東京、平成 19 年 7 月 18—20 日.
- 34) 長尾玄、柳田修、阿部展次、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：切除不能、再発胃癌に対する TS-1 単独療法の有用性 TS-1+CDDP 併用療法と比較して. 第 62 回日本消化器外科学会総会、東京、平成 19 年 7 月 18 日
- 35) 木暮道夫、太田重久、井手博子、長谷川浩、杉山政則：癌緩和療法対象患者受け入れの適応と問題点—受け入れ側から—第 62 回日本消化器外科学会定期学術集会、東京、平成 19 年 7 月 19 日.
- 36) 正木忠彦：生物学的製剤によるクローン病外科治療の変貌 - 複雑痔瘻に対する治療を中心に. 第 62 回日本消化器外科学会ランチョンセミナー28, 東京, 平成 19 年 7 月 20 日.
- 37) 阿部展次、竹内弘久、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕（杏林大・医・外科）：ESD と腹腔鏡下リンパ節郭清術のコラボレーション—早期胃癌に対する究極の低侵襲治療. 第 62 回日本消化器外科学会総会、東京、平成 19 年 7 月 20 日.
- 38) 武井宏一、松岡弘芳、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：イレウス手術症例の術前診断における multidetector CT の有用性に関する検討. 第 62 回日本消化器外科学会総会、東京、平成 19 年 7 月 18—20 日.
- 39) Matsuoka H, Masaki T, Takei K, Sato K, Ueki H, Sugiyama M, Atomi Y. Impact of

intraoperative radiotherapy on postoperative evacuation following ultra-low anterior resection. 12th. Ann Meet. of Colorectal and Anal Function. Tokyo, Aug. 4, 2007.

- 40) 杉山政則：CUSAによる膵切離と膵管空腸粘膜縫合．第1回名古屋膵癌シンポジウム、名古屋、平成19年8月11日．
- 41) 鈴木裕，阿部展次，杉山政則、跡見裕．膵体尾部切除後の膵液漏出に対する予防的・治療的内視鏡的膵管ステントの有用性．第34回日本膵切研究会，東京，平成19年8月25日．
- 42) Masaki T, Matsuoka H, Satoh K, Sugiyama M & Atomi Y: Pelvic autonomic nerve preservation in rectal cancer surgery. 11th Congress of Asian Federation of Coloproctology (AFCP), Tokyo, Sep. 20-22, 2007.
- 43) Matsuoka H, Masaki T, Takei K, Sato K, Ueki H, Sugiyama M, Atomi Y. Comparison of Functional Outcome: Colonic J-pouch vs. Coloplasty in Patients with Low Rectal Cancer. 11th congress of The Asian Federation of Coloproctology (AFCP), Sept. 20, 2007.
- 44) 跡見裕：肝胆膵領域の温故知新-粘液産生膵腫瘍と肝内結石の最近の話題．第10回神戸フォーラム，神戸市，平成19年9月21日．
- 45) 木暮道夫、太田重久、井手博子、長谷川浩、服部了司、高橋淳子、杉山政則：一般病院における高齢者胆道炎の臨床像とガイドラインとの関係．第43回日本胆道学会、東京、平成19年9月28日．
- 46) 鈴木裕，山口高史，阿部展次，柳田修，正木忠彦，森俊幸，杉山政則，跡見裕．ERCP後膵炎の対策 EPBD後膵炎と高アミラーゼ血症のリスクファクターに関する検討．第43回

日本胆道学会総会，東京，平成 19 年 9 月 28 日．

- 47) 武井宏一，森俊幸，正木忠彦，杉山政則，跡見裕：下部消化管手術における予防的抗生剤の投与開始時期と SSI 発症に関する検討．第 29 回日本手術医学会総会、札幌、平成 19 年 9 月 28 日・29 日．
- 48) 長尾玄，森俊幸，正木忠彦，杉山政則，跡見裕：リスクマネジメントとしての院内プリビレッジ制度．第 29 回日本手術医学会総会、札幌、平成 19 年 9 月 28－29 日
- 49) 跡見裕：肝内結石症治療のトピックス．新潟胆膵研究会 2007，新潟市，平成 19 年 9 月 29 日．
- 50) 鈴木裕、小林敬明，佐藤和典，阿部展次，松岡弘芳，柳田修，正木忠彦，森俊幸、杉山政則，跡見裕．拡張主膵管内を充満発育した膵腺房細胞癌の 1 第 12 回日本外科病理学会総会，山形，平成 19 年 9 月 29 日．
- 51) 鈴木裕，山口高史，阿部展次，柳田修，正木忠彦，森俊幸，杉山政則，跡見裕．メッケル憩室内の異所性膵に発生した膵管内乳頭粘液性腫瘍の 1 例．第 12 回日本外科病理学会総会，山形，平成 19 年 9 月 29 日．
- 52) 松岡弘芳，正木忠彦，杉山政則，跡見裕．大腸癌フォローアップにおける腫瘍マーカーの有用性の検討（第 1 回）大腸癌フォローアップ研究会 平成 19 年 9 月 29 日．
- 53) Masaki T, Matsuoka H, Satoh K, Sugiyama M & Atomi Y: Quality assessment of rectal cancer surgery. Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2007, Kobe, Oct. 15-18, 2007.

- 54) Matsuoka H, Masaki T, Sugiyama M, Atomi Y, Ohkura T. Morphological Characteristics of Lateral Pelvic Lymph Nodes in Rectal Carcinoma. Asian Pacific Digestive Disease (APDW), Kobe, Oct. 15-17, 2007.
- 55) 柳田 修、長尾玄、杉山政則、跡見裕：高齢者食道癌に対する積極的放射線或いは放射線化学療法の結果。第49回日本消化器病学会大会、神戸、平成19年10月18-21日。
- 56) 松岡弘芳、正木忠彦、杉山政則、跡見 裕、大倉康男。直腸間膜リンパ節転移の形態的特徴に関する検討。第49回日本消化器病学会総会。神戸、平成19年10月18-21日。
- 57) 長尾 玄、阿部展次、竹内弘久、松岡弘芳、柳田 修、森 俊幸、杉山政則、跡見 裕：早期胃癌ESD後の内視鏡サーベイランスの重要性。JDDW2007、神戸、平成19年10月18日-21日
- 58) 木暮道夫、太田重久、高橋純子、杉山政則、井手博子、長谷川浩：側視鏡を用いた投光下のPEG造設。第74回日本消化器内視鏡学会総会、東京、平成19年10月20日。
- 59) 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田 修、松岡弘芳、正木忠彦、森 俊幸、跡見裕。膵IPMNの診療アルゴリズムと治療戦略—全国調査の解析より。第49回日本消化器病学会大会、神戸、平成19年10月20日。
- 60) 阿部展次、竹内弘久、跡見裕、(杏林大・医・外科)：ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術—早期胃癌内視鏡治療の超適応拡大へ向けて—。第74回日本消化器内視鏡学会総会、神戸、平成19年10月21日。
- 61) 武井宏一、松岡弘芳、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：イレウス手術症例の術前診断における臨床・画像診断学的検討。JDDW2007、神戸、平成19年10月18-21日。

- 62) 竹内弘久、阿部展次、跡見裕：早期胃癌EMR適応拡大病変に対する長期成績について-ESD vs開腹胃切除術-.JDDW2007,神戸,平成19年10月19日.
- 63) 山口高史、阿部展次、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見 裕：自己免疫性膵炎のステロイド治療による臨床像の変化. 第49回日本消化器病学会大会、神戸、平成19年10月20日
- 64) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：高齢者早期胃癌に対するESD適応についての検討と注意点について.JDDW2007,神戸,平成19年10月21日.
- 65) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌EMR適応拡大病変に対するESDの治療成績と将来展望.第45回日本癌治療学会総会,京都,平成19年10月24日.
- 66) 山口高史、阿部展次、竹内弘久、柳田 修、正木忠彦、森 俊幸、杉山政則、跡見 裕：ESD後リンパ節転移陽性の早期胃癌に対し全胃温存腹腔鏡下リンパ節郭清術を施行した1例. 第45回日本癌治療学会総会、京都、平成19年10月24日
- 67) 柳田修、長尾玄、杉山政則、跡見裕：異時多発早期胃癌に対する根治切除術後のRoux-en-Y挙上脚再発にS-1が奏効した1例. 第45回日本癌治療学会総会、京都、平成19年10月24-26日.
- 68) 松岡弘芳、正木忠彦、武井宏一、佐藤和典、植木ひさよ、杉山政則、跡見裕. 便失禁の治療戦略 当科における便失禁の治療戦略. 第62回 日本大腸肛門病学会、東京、平成19年11月2-3日.
- 69) 長尾玄、武井宏一、松岡弘芳、山口高史、高和正、橋本佳和、小山洋伸、小林敬明、杉山政則、跡見裕：Infection Control Manager(ICM)制度導入後のSSI発生率の検討. 第20回

日本外科感染症学会学術集会、東京、平成 19 年 11 月 8 日-9 日

- 70) 柳田 修、跡見裕：胃切除後の骨粗鬆症に対するアレンドロネートの有用性の検討．第 37 回胃外科・術後障害研究会、大阪、平成 19 年 11 月 9-10 日．
- 71) 正木忠彦，松岡弘芳，佐藤和典，武井宏一，植木ひさよ，杉山政則，跡見裕：クローン病に対するレミケードの使用経験．第 20 回多摩大腸疾患懇話会、東京、平成 19 年 11 月 10 日．
- 72) 松岡弘芳，正木忠彦，杉山政則，跡見 裕．Stapling technique による術後排便機能に関する臨床生理神経学的検討 第 35 回 杏林医学会総会，東京，平成 19 年 11 月 17 日．
- 73) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：当科における早期胃癌内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の治療成績.第36回杏林医学会総会,三鷹,平成19年11月17日．
- 74) 松岡弘芳，正木忠彦，佐藤和典，杉山政則，跡見裕． 腹腔鏡補助下前方切除例における術後早期排便機能の検討．第 20 回 日本内視鏡外科学会総会，仙台，平成 19 年 11 月 19-21 日．
- 75) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：経皮内視鏡的胃瘻造設術(Introducer法)のインフォームド・コンセントの工夫について.第20回日本内視鏡外科学会総会,仙台,平成19年11月19日．
- 76) 阿部展次、竹内弘久、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕（杏林大・医・外科）：ESD 用デバイスを用いた経胃内視鏡的胆嚢摘出術． 第 20 回日本内視鏡外科学会総会、仙台、平成 19 年 11 月 20 日．

- 77) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌(EMR適応内病変・適応拡大病変)に対するESDの長期成績について.第20回日本内視鏡外科学会総会,仙台,平成19年11月21日.
- 78) 柳田 修、杉山政則、跡見裕：食道切除における胸腔内食道胃管吻合は安全かー再建のコツと成績ー. 第69回日本臨床外科学会総会、横浜、平成19年11月29日－12月1日.
- 79) 阿部展次、竹内弘久、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕（杏林大・医・外科）：内視鏡的切除適応外病変に対する全胃温存を目指した先行ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術の意義. 第69回日本臨床外科学会総会、東京、平成19年11月29日.
- 80) 山口高史、阿部展次、杉山政則、跡見 裕：非観血的内瘻術が奏功した臍頭十二指腸切除後の完全外臍液瘻の1例. 第69回日本臨床外科学会総会、横浜、平成19年11月30日
- 81) 松岡弘芳，正木忠彦，杉山政則，跡見 裕．直腸癌に対する機能温存手術 ストーマ排便と超低位前方切徐術後後排便障害における主観的比較．第69回 日本臨床外科学会総会，横浜，平成19年11月29日-12月1日．
- 82) 武井宏一，松岡弘芳，正木忠彦，森俊幸，杉山政則，跡見裕：下部消化管手術におけるSSI発症に関する検討．第69回日本臨床外科学会総会、横浜、平成19年11月29日－12月1日．
- 83) 長尾玄，柳田修，武井宏一，松岡弘芳，阿部展次，正木忠彦，森俊幸，杉山政則，跡見裕：上部消化管手術におけるSSI発症の危険因子に関する検討．第69回日本臨床外科学会総会、横浜、平成19年11月29日－12月1日
- 84) 鈴木裕，阿部展次，山口高史，柳田修，正木忠彦，森俊幸，杉山政則，跡見裕．臍管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の治療方針決定に有用な画像診断は?第69回日本臨床外科学会総会．

平成 19 年 11 月 30 日.

- 85) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：内視鏡・腹腔鏡手術の接点となる早期胃癌EMR適応拡大病変に対する治療.第69回日本臨床外科学会総会、横浜、平成19年12月1日.
- 86) 木暮道夫、太田重久、井手博子、佐竹亮介、杉山政則：開腹胃瘻造設の2例.第69回日本臨床外科学会総会、横浜、平成19年12月1日.
- 87) 竹内弘久、杉山政則、阿部展次、跡見裕、大浦紀彦、丹波光子、松田剛明、斎藤英昭：PEG(Introducer法)・管理の工夫と,Tubal Feedingのup to date.第2回八王子地区TFの問題点を考える会,八王子,平成20年1月11日.
- 88) 長尾玄、武井宏一、松岡弘芳、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：手術部位感染発症と肥満との関連性.第42回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会、東京、平成20年1月12日
- 89) 松岡弘芳、正木忠彦、武井宏一、佐藤和典、植木ひさよ、杉山政則、跡見裕. 当科における大腸重複癌の臨床病理学的検討.第68回大腸癌研究会、福岡、平成20年1月25日.
- 90) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌ESD後後出血例の検討について.第27回多摩消化器シンポジウム,東京,平成20年1月26日.
- 91) 鈴木裕、山口高史、阿部展次、杉山政則、跡見裕. SS 胆嚢癌の一例. 第9回東京胆道懇話会、東京、平成20年2月1日.
- 92) 正木忠彦、松岡弘芳、佐藤和典、阿部展次、森俊幸、杉山政則、跡見裕：大腸sm癌EMR後の追加腸切除の適応決定—接着関連因子からみた新しい展開.第4回日本消化管学会コアシンポジウム、大阪、平成20年2月7日.

- 93) 正木忠彦：変わりゆくクローン病外科治療の最前線－難治性痔瘻を中心に．炎症性腸疾患
学術講演会，仙台，平成20年2月9日．
- 94) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌EMR適応
拡大病変ハイリスク症例に対するESDの妥当性について．第80回日本胃癌学会総会附設
ESD研究会，横浜，平成20年2月9日．
- 95) 正木忠彦：変わりゆくクローン病外科治療の最前線－難治性痔瘻を中心に．第2回クロー
ン病治療セミナー，浜松，平成20年2月22日．鈴木裕，杉山政則，乾和郎 1，五十嵐
良典 2，大原弘隆 3，田妻進 4，辻忠男 5，宮川宏之 6，跡見裕（1 藤田保健衛生大学第2
教育病院 消化器内科，2 東邦大学医療センター大森病院 消化器内科，3 名古屋市立大
学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学，4 広島大学 総合診療科，5 さいたま市立病
院 消化器内科，6 札幌厚生病院 第2消化器科）．第20回日本消化器結石診療研究会．
平成20年3月1日．
- 96) 竹内弘久、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：腹部救急手術後
NSTの介入により、経皮的内視鏡胃瘻造設術(Introducer法)が有用だった2症例．第44回
日本腹部救急医学会総会，横浜，平成20年3月15日．
- 97) 松岡弘芳，正木忠彦，杉山政則，跡見裕．大腸癌フォローアップにおける腫瘍マーカーの
有用性の検討：ROC曲線分析による至適診断基準の検討（第2回） 大腸癌フォローアッ
プ研究会 平成20年3月22日．

II. 論文

- 1) 杉山政則、鈴木裕、阿部展次、跡見裕：膵管内乳頭粘液性腫瘍の診断と治療．老年消化器

- 病 18;107-111, 2007.
- 2) 杉山政則、鈴木裕、阿部展次、森俊幸、跡見裕：急性膵炎における外科治療の現況．臨床外科 62;1649-1654, 2007.
 - 3) Sugiyama M, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Atomi Y. Management of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. J Gastroenterol 43:181-115, 2008.
 - 4) 杉山政則、鈴木裕、阿部展次、森俊幸、跡見裕：胆石症の手術適応．臨床消化器内科 23;475-480, 2008.
 - 5) 森俊幸、鈴木裕、杉山政則、跡見裕：肝内結石症の歴史 時代的変遷と現状．外科治療 97: 559-567, 2007.
 - 6) 森俊幸、柳田修、正木忠彦、杉山政則、跡見裕：腹腔鏡下逆流防止手術症例における高齢者逆流性食道炎の臨床像 日本臨床外科学会雑誌 68: 2183-2190, 2007.
 - 7) 森俊幸、鈴木裕、阿部展次、杉山政則、跡見裕：我が国における肝内結石症の変遷．胆と膵 28: 479-482, 2007.
 - 8) 森俊幸、阿部展次、杉山政則、跡見裕：肝・胆・膵・脾の鏡視下手術 良性膵疾患に対する腹腔鏡下手術．消化器外科 30: 954-965, 2007.
 - 9) Masaki T, Takayama M, Matsuoka H, Abe N, Ueki H, Sugiyama M, Tonari A, Kusuda J, Mizumoto S & Atomi Y: Intraoperative radiotherapy for oncological and function-preserving surgery in patients with advanced lower rectal cancer. Langenbecks Arch Surg 393(2):173-180, 2008.
 - 10) Abe N, Sugiyama M, Yamaguchi Y, Yanagida O, Masaki T, Mori T, Atomi Y: Wrapping of skeletonized and divided vessels using the falciform ligament in distal

pancreatectomy. *Am J Surg* 194: 94-97, 2007.

- 11) Yamaguchi Y, Katsumi N, Aoki K, Toki M, Nakamura K, Abe N, Morozumi K, Sugiyama M, Ishida H, Takahashi S: Resection area of 15mm as dividing line for choosing satrip biopsy or endoscopic submucosal dissection for mucosal gastric neoplasm. *J Clin Gastroenterol* 41:472-476, 2007.
- 12) 阿部展次、杉山政則、鈴木 裕、植木ひさよ、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕、大倉康男: 胆管癌の病理. *消化器外科* 30:1711-1719, 2007.
- 13) 阿部展次、竹内弘久、長友亜津子、泉里友文、長尾玄、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕: 早期胃癌に対する ESD と腹腔鏡下手術の接点-先行 ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術-. *消化器内視鏡* 19:663-669, 2007.
- 14) 阿部展次、杉山政則、鈴木 裕、松岡弘芳、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕: 稀な組織型の 腭腫瘍—漿液性嚢胞腫瘍と solid pseudopapillary tumor-. *外科治療* 96:315-321, 2007.
- 15) 阿部展次、跡見裕: 臨床医学の展望—肝・胆道・膵外科学. *日本医事新報* 4375:74-85, 2008.
- 16) Matsuoka H, Nakamura A, Masaki T, Sugiyama M, Nitatori T, Ohkura Y, Sakamoto A, Atomi Y. Optimal diagnostic criteria for lateral pelvic lymph node metastasis in rectal carcinoma. *Anticancer Res* 27:3529-33, 2007.
- 17) Matsuoka H, Masaki T, Sugiyama M, Atomi Y. Pudendal nerve terminal motor latency in evaluation of evacuatory disorder following low anterior resection for rectal carcinoma. *Hepatogastroenterology* 54(77):1426-9, 2007.

- 18) Matsuoka H, Masaki T, Sugiyama M, Atomi Y, Ohkura Y, Sakamoto A. Morphological characteristics of lateral pelvic lymph nodes in rectal carcinoma. *Langenbecks Arch Surg* 392(5):543-7, 2007.
- 19) 鈴木裕, 杉山政則, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: 総胆管結石に対する内視鏡的治療後の胆嚢機能に関する検討. *胆膵の生理機能* 23: 23-27, 2007.
- 20) 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 【消化器の炎症からの腫瘍】膵臓 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の発生機序. *臨床消化器内科* 22: 1011-1015, 2007.
- 21) 鈴木裕, 山口高史, 阿部展次, 松岡弘芳, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 【T2(ss)胆嚢癌の診断法と外科治療方針の問題点】 腹腔鏡下胆嚢摘出後判明 ss 胆嚢癌の治療方針. *胆と膵* 28: 575-578, 2007.
- 22) 鈴木裕, 杉山政則, 山口高史, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: 【あなたのそばにも IPMN】 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) 全国調査の解析と問題点. *消化器内視鏡* 19: 1069-1073, 2007.
- 23) 鈴木裕, 阿部展次, 松岡弘芳, 柳田修, 生形之男 1, 正木忠彦, 森俊幸, 谷忠伸 1, 杉山政則, 尾形正方 1, 跡見裕 (1 財団法人結核予防会 複十字病院 消化器外科): 【多発肝転移をめぐって】 多発肝転移を見つける画像診断. *臨床外科* 62: 1167-1171, 2007.
- 24) 鈴木裕, 山口高史, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 【膵癌の診断と治療】 MCN と IPMN の治療方針. *外科治療* 97: 273-278, 2007.
- 25) 鈴木裕, 杉山政則, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕. 【膵管ドレナージ最前線】 外科からみた膵管ドレナージ. *消化器内視鏡* 19: 1666-1671, 2007.
- 26) Suzuki Y, Sugiyama M, Abe N, Fujioka Y, Atomi Y, Immunohistochemical

similarities between pancreatic mucinous cystic tumor and ovarian mucinous cystic tumor. *Pancreas* 36: e40-46, 2008.

- 27) 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌ESDに対するクリニカルパスの有用性 偶発症対策を十分考慮したパスを使用して.多摩消化器シンポジウム誌 22：41-45,2008.
- 28) 竹内弘久、杉山政則、阿部展次、跡見裕：内視鏡専門医に必要な基礎知識 前処置と Sedation.消化器内視鏡 19: 885-890, 2007.
- 29) 長尾玄, 杉山政則, 跡見裕：【消化管手術後の内視鏡】 消化管手術後の内視鏡診断・治療の意義と役割：消化器内視鏡(0915-3217)19 巻 6 号 Page776-781(2007.06). 東京医学社
- 30) 中里徹矢,杉山政則,跡見裕：膵がん罹患ハイリスク群の検診と診療. 成人病と生活習慣病 3 7 巻 1 1 号：1247－1250,2007.

III. 著書

- 1) 杉山政則：膵嚢胞性腫瘍. 女性の医療学—外来で役立つ実践ガイド—本田英雄、島田和幸編. 大阪、永井書店、2007. p. 563-567.
- 2) 杉山政則：膵奇形、膵胆管合流異常症. 内科学、第9版. 杉本恒明、矢崎義雄編. 東京、朝倉書店、2007. P. 894-895, 1028.
- 3) 正木忠彦、松岡弘芳、杉山政則、跡見裕：放射線化学療法と機能温存. 機能温存のための大腸外科治療. 中山書店, 2007. p.114-121.
- 4) 正木忠彦、跡見裕：肝彎曲の剥離法. 腹腔鏡下大腸切除ハンドブック. へるす出版, 2007. p.36-39.

- 5) 阿部展次、杉山政則、跡見裕：画像診断． 専門医のための消化器外科学レビュー2007． 跡見 裕、門田守人、炭山嘉伸 監修． 総合医学社、東京、2007、p.255-260.

IV. その他

- 1) 正木忠彦：進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術の根治性に関する比較研究．厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）北野班平成 19 年度分担研究報告書，平成 20 年 3 月．
p.23 .
- 2) 阿部展次（座長）：一般演題（ポスター）胃（ESD7）．第 73 回日本消化器内視鏡学会総会、東京、平成 19 年 5 月 10 日．
- 3) 阿部展次（座長）：一般演題（ポスター）副腎腫瘍． 第 62 回日本消化器外科学会総会、東京、平成 19 年 7 月 19 日．
- 4) 阿部展次（座長）：一般演題（ポスター）胆道． 第 74 回日本消化器内視鏡学会総会、神戸、平成 19 年 10 月 21 日．
- 5) 阿部展次（座長）：一般演題（ポスター）胆道． 第 69 回日本臨床外科学会総会、東京、平成 19 年 11 月 30 日．
- 6) 阿部展次（座長）：一般演題（ポスター）膵． 第 69 回日本臨床外科学会総会、東京、平成 19 年 11 月 30 日．
- 7) ナーシングケア Q&A 第 14 巻 徹底ガイド 排便ケア Q&A 前田耕太郎編 東京 総合医学社 P90, P227-229、2006 年 12 月 20 日発行

薬理学教室

(平成 19 年度)

I. 口 演

1. 金井好克: アミノ酸トランスポーター: 問題点. トランスポータープロテオミクス研究検討会, 大阪, 平成 19 年 4 月 14 日.
2. 金井好克: CREST サイトビジット, 福岡, 平成 19 年 4 月 19 日.
3. 安西尚彦: ヒト腎臓尿酸トランスポーターURAT1 によるサリチル酸輸送. リウマチ学会 2007, 横浜, 平成 19 年 4 月 26 日
4. Anzai N, Micek V, Brzica H, Koepsell H, Sabolic I: Immunolocalization of G-protein-coupled receptors for succinate (GPR91) and α -ketoglutarate (GPR99) in the human nephron, 5th International Symposium on Receptor Mechanisms, Signal Transduction and Drug Effects, 静岡, 平成 19 年 5 月 10-11 日
5. 木村 徹: フォトアフィニティーラベルロイシンを用いたアミノ酸センサーの同定. フォトアフィニティーラベル体を用いた結合部位同定に関する討論会, 京都, 平成 19 年 5 月 16 日.
6. 安西尚彦, 福富俊之, 金井好克, 遠藤 仁: 尿酸トランスポーターURAT1 と細胞内支持タンパク質 PDZK1 との相互作用のリン酸化による調節の可能性. 第 50 回日本腎臓学会学術総会. 浜松, 平成 19 年 5 月 25 日.
7. 安西尚彦, 宮崎博喜, 何 新, 遠藤 仁, 金井好克: PDZK1 を介した Na⁺-モノカルボン酸共輸送体 SMCT1 と尿酸トランスポーターURAT1 の輸送複合体形成の可能性. 浜松, 平成 19 年 5 月 25 日.
8. 平田 拓¹, 何 新¹, Ellapan B¹, 石川貴正², 曾我朋義³, 安西尚彦¹, 遠藤 仁¹, 金井好克¹(¹杏林大学医学部薬理学, ²ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社研究開発部, ³慶応義塾大学先端生命研究所): メタボローム技術を用いた新規有機イオントランスポーターOATN1 の生理機能の解明. 第 50 回日本腎臓学会学術総会 浜松, 平成 19 年 5 月 25 日.
9. 安西尚彦、加国雅和¹、大房 健²、石橋賢一³、吉里勝利⁴、遠藤 仁 (¹(株)フェニックスバイオ、²(株)プロフェニックス、³国立千葉東病院臨床研究センター、⁴広島大・生物科学専攻) : ヒト肝細胞キメラマウスにおける血中ヒトアルブミン値と血清尿酸値の相関性に関する検討、第 50 回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成 19 年 5 月

25 日

10. 安西尚彦、加国雅和¹、大房 健² (¹(株)フェニックスバイオ、²(株)プロフェニックス、) : ヒト肝臓キメラマウスにおける血中ヒトアルブミン値と血清尿酸値の相関性に関する検討、第 43 回日本肝臓学会総会、東京、平成 19 年 6 月 1 日
11. 安西尚彦: 肝臓血管側のニコチン酸取込み経路としてのヒト有機アニオントランスポーターhOAT2 の役割: サルチル酸との相互作用. 第 43 回日本肝臓学会総会. 東京, 平成 19 年 6 月 1 日.
12. 三浦大作^{1,2}, 安西尚彦², 坂田武¹, 金井好克², 遠藤仁^{1,2}(¹株式会社富士バイオメディックス, ²杏林大学医学部薬理学):有機アニオントランスポーターhOAT1 およびhOAT3 を介したパラアミノ酸の取り込みに対する血清タンパクの影響. 第 116 回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成 19 年 6 月 2 日.
13. Islam R, Jutabha P, 平田拓, 安西尚彦, 遠藤仁, 金井好克: 上皮型中世アミノ酸トランスポーターB0AT1 によるメチル水銀輸送の検討. 第 116 回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成 19 年 6 月 2 日.
14. 安西尚彦、平田 拓、Sunena Kundu-Srivastava、三浦大作、小泉昭夫¹、金井好克 (¹京都大学大学院医学研究科健康要因学) (シンポジウム) : Hartnup 病原因遺伝子B⁰AT1(SLC6A9)の細胞内 C 末端結合タンパク質の同定、第 2 回トランスポーター研究会 シンポジウム 1、東京、平成 19 年 6 月 9 日
15. 波多野亮¹、平田 拓、真田 覚¹、安西尚彦、金井好克、松原光伸¹ (¹東北大・医・創生応用医学研) : 新規プロスタグランジン特異的トランスポーターOAT-PG の生理機能の解析. 第 2 回トランスポーター研究会、東京、平成 19 年 6 月 10 日
16. 金井好克: セミナー「アミノ酸トランスポーター: その分子機構と病態」. 第 3 回分子生物学セミナー, 栃木, 平成 19 年 6 月 11 日.
17. 安西尚彦, 何 新, 金井好克: 肝臓血管側のニコチン酸取込み経路としてのヒト有機アニオントランスポーターhOAT2 の役割: サリチル酸との相互作用. 第 80 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 平成 19 年 6 月 14 日.
18. 金井好克: 推薦講演「実践臨床病態学講義」. 群馬大学同窓会推薦講演, 群馬大学, 平成 19 年 6 月 15 日.
19. 安西尚彦、金井好克、遠藤 仁 (シンポジウム) : 薬物トランスポーターと腎障害: 最近の話題、第 34 回日本トキシコロジー学会学術年会 シンポジウム 1 薬剤性腎障害の発症機序と防御、東京、平成 19 年 6 月 27 日

20. 安西尚彦、加国雅和¹、大房 健²、吉里勝利³、遠藤 仁 (¹ (株) フェニックスバイオ、² (株) プロフェニックス、³ 広島大・生物科学専攻) : ヒト肝細胞キメラマウスにみられる高尿酸血症と血中ヒトアルブミン値の相関性、第 34 回日本トキシコロジー学会学術年会、東京、平成 19 年 6 月 27 日
21. Taku Hirata, Kanokporn Phetdee, Ellappan Babu, Sudarat Nimitvilai, Kazuya Nomura, Shohei Mitani, Keiko Andou, Yoshikatsu Kanai: Analysis of *C. elegans* SLC7 amino acid transporters. 16th international *C. elegans* meeting, University of California, Los Angeles, USA, June 27-July 1
22. Kanokporn Phetdee, Taku Hirata, Sirinun Nilwarangkoon, Ellappan Babu, Kazuya Nomura, Shohei Mitani, and Yoshikatsu Kanai: Identification and characterization of an intestinal amino acid transporter (AAT-4) in *Caenorhabditis elegans*. 16th international *C. elegans* meeting, University of California, Los Angeles, USA, June 27-July 1
23. 安西尚彦 : 腎尿酸輸送最近の話題 : 尿酸トランスポートソーム、東京理科大学薬学部生物薬剤学研究室 膜輸送体研究会特別セミナー、野田市、平成 19 年 7 月 17 日
24. 安西尚彦 : 有機イオンの細胞膜輸送: トランスポーターの基礎と臨床. 第 3 回 JPC/JCNRA 合同プテリジン研究発表会, 東京, 平成 19 年 7 月 21 日.
25. 金井好克: 有機溶質トランスポートソーム. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」平成 19 年度第 1 回班会議, 湘南, 平成 19 年 7 月 23 日.
26. 李 悦瑋¹, 木村徹¹, 金井正美², 川上速人², 金井好克¹ (¹ 杏林大学医学部薬理学, ² 杏林大学医学部解剖学): Formation of the transportsome between the Cationic amino acid transporter 5 and endothelial nitric oxide synthase in the placenta may explain the “Arginine Paradox”. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」平成 19 年度第 1 回班会議, 湘南, 平成 19 年 7 月 23 日.
27. Phetdee K, Hirata T, Ellappan B, Kanai Y: Transportsome study by using *C.elegans* as a model. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」平成 19 年度第 1 回班会議, 湘南, 平成 19 年 7 月 23 日.
28. Kanyarat P, Kimura T, Hirata T, Fukutomi T, Takfuji K, Kanai Y: Identification of the CD98hc interacting proteins by proteomics approach. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」平成 19 年度第 1 回班会議, 湘南, 平成 19 年 7 月 23 日.
29. 波多野 亮¹, 平田 拓², 真田 覚¹, 安西尚彦², 金井好克², 松原光伸¹ (¹ 東北大学医学部遺伝子医療開発分野, ² 杏林大学医学部薬理学): 腎特異的 Prostaglandin

輸送体 OAT-PG による腎皮質内 PGE² 循環システムの確立. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」平成 19 年度第 1 回班会議, 湘南, 平成 19 年 7 月 23 日.

30. Ueno T: How can we identify intracellular amino acid sensor molecules? The 21st Symposium of the Protein Society, Boston, U.S.A., July 24, 2007.
31. Islam R, Jutabha P, 平田拓, 安西尚彦, 遠藤 仁, 金井好克: 上皮型中性アミノ酸トランスporter-B⁰ATP1 によるメチル水銀輸送の検討. 第 29 回日本中毒学会総会・学術集会, 旗の台, 平成 19 年 7 月 27 日.
32. 安西尚彦, Kittipong Tachampa, Suparat Khamdang, 武田理夫, 遠藤 仁: ヒト有機アニオントランスporter-OATs/OCTs とマイコトキシンとの相互作用, 第 29 回日本中毒学会・学術集会, 旗の台, 平成 19 年 7 月 27 日
33. Hirata T¹, ²Ishikawa T, ^{2,3}Soga T and Kanai Y¹ (¹Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, ²Human Metabolome Technologies Inc, Yamagata, Japan, ³Institute for Advanced Biosciences, Keio University, Yamagata, Japan): Elucidation of function of an orphan transporter from SLC22 organic cation/anion/switterion transporter family by metabolome analysis. BioMedical Transporters 2007, Bern, Switzerland, Aug 13, 2007.
34. Sabolic I¹, Breljak D¹, Ljubojevic M¹, Balen D¹, Zlender V¹, Brzica H¹, Kusan M¹, Anzai N (¹Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia) : Renal expression of organic anion transporter Oat5 in rats is regulated by sex hormones. BioMedical Transporters 2007, Bern, 平成 19 年 8 月 12-16 日
35. Breljak D¹, Ljubojevic M¹, Balen D¹, Zlender V¹, Anzai N, Burckhardt G², Sabolic I¹. (¹Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia, ²University of Göttingen, Germany) : Expression of Organic Anion Transporter Oat3 in Rat Liver is Regulated by Sex Hormones. BioMedical Transporters 2007, Bern, 平成 19 年 8 月 12-16 日
36. Naohiko Anzai, Hitoshi Endou: Renal Drug Transporters and Nephrotoxicity, Symposia Session 5-8 Hepatotoxicity/Nephrotoxicity, 6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences, Tokyo, Japan, 平成 19 年 8 月 22 日
37. Naoko Ohtsu¹, Jun Otomo², Naohiko Anzai, Takeshi Sakata¹, Promsuk, Jutabha¹, Shinichi Narikawa¹, Hitoshi Endou (¹(株) 富士バイオメディックス, ²(株) 日立) : Development of the Alternative Method for Renal Drug Excretion using Xenopus Oocyte Expression

- System combined with a High throughput method OOCYTEXRESS, 6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences, Tokyo, Japan、平成 19 年 8 月 22 日
38. Sunena Kundu-Srivastava, Suparat Khamdang, Naohiko Anzai, Yoshikatsu Kanai, Hitoshi Endou: Assessment of Nephrotoxic compounds using cell lines stably expressing renal organic anion transporters: Interaction with contrast media, 6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences, Tokyo, Japan、平成 19 年 8 月 24 日
39. 金井好克: ヘテロニ量体型アミノ酸トランスポーター: その分子機構と病態. サントリー生有研フォーラム「小分子を運ぶトランスポーター機能制御と機構解明に向けて」, 大阪, 平成 19 年 8 月 31 日.
40. 平田拓, 武藤朋子, 金春姫, Babu E, 何新, 安西尚彦, 金井好克: 糖尿病モデルハウスを用いた網羅的遺伝子発現プロファイリングによるエネルギー代謝に関わる新規トランスポーター遺伝子の探索. 分子腎臓研究会第 13 回研究発表会, 東京, 平成 19 年 9 月 1 日.
41. 金井好克: LAT1/4F2hc についての進捗. LAT1 キリン定例会議, 東京, 平成 19 年 9 月 3 日.
42. 金井好克: 「膜輸送複合体のプロテオミクスによる解析」研究の概略説明. 共同研究経過報告会, 大阪, 平成 19 年 9 月 7 日.
43. 平田拓: 「膜輸送複合体のプロテオミクスによる解析」進捗状況のまとめ. 共同研究経過報告会, 大阪, 平成 19 年 9 月 7 日.
44. 安西尚彦, 木村徹, 福富俊之, 小藤理絵, 金井好克, 遠藤仁: 腎臓尿酸トランスポーターURAT1(SLC22A12)遺伝子変異における輸送機能解析. 日本人類遺伝学会, 東京, 平成 19 年 9 月 14 日.
45. 浦野和子¹, 谷口敦夫¹, 安西尚彦², 金井好克², 山中麻理子¹, 山中寿¹, 遠藤仁^{2,3}, 鎌谷直之¹ (¹東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター, ²杏林大学医学部薬理学教室, ³(株)富士バイオメディックス): 痛風発症に関与する NPT1 遺伝子多型. 日本人類遺伝学会, 東京, 平成 19 年 9 月 14 日.
46. 安西尚彦: 腎臓尿酸輸送から、「トランスポートソーム」へ. トランスポーター研究会 北陸地方キックオフミーティング. 富山, 平成 19 年 9 月 29 日.
47. 福富俊之, 安西尚彦, 木村徹, Jutabha P, 上野剛, 高藤和輝, 金井好克: FRET を現象を用いた有機溶質の再吸収を司る輸送分子複合体の解明. 第 117 回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成 19 年 10 月 6 日.

48. Kundu-Srivastava S, 安西尚彦, Khamdang S, 金井好克: Interaction of human renal organic anion transporters with contract medi. 第 117 回日本薬理学会関東部会, 東京, 平成 19 年 10 月 6 日.
49. 金井好克: 尿細管膜輸送分子の分子生理と病態—Overview—. 第 37 回日本腎臓学会東部学術大会, 大宮, 平成 19 年 10 月 6 日.
50. 安西尚彦: アミノ酸尿症と新規アミノ酸トランスポーターSLC6. 第 37 回日本腎臓学会東部学術大会, 大宮, 平成 19 年 10 月 6 日.
51. 安西尚彦: トランスポートソームという考え方—尿酸トランスポーターを例として. 特別講演会: トランスポーターワークショップ in 徳島～トランスポーター研究の展開, 徳島, 平成 19 年 10 月 19 日.
52. 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7の同定. 第 11 回日本肝臓学会大会, 神戸, 平成 19 年 10 月 21 日
53. 金井好克, 安西尚彦, 平田拓, Kanokporn Phetdee: アミノ酸トランスポーター:糖鎖の関与を含めて. CREST 班会議, 東京, 平成 19 年 10 月 21 日
54. 平田拓, Kanokporn Phetdee, 安西尚彦, 金井好克: 線虫 *C. elegans* のアミノ酸トランスポーターの解析 ～線虫ユニークなアミノ酸輸送体の解析～. CREST 班会議, 東京, 平成 19 年 10 月 21 日
55. 安西尚彦、遠藤 仁: 新規有機アニオントランスポーター分子の同定、生理学研究所研究会「上皮膜機能活性化物質と上皮膜防御の最前線」、岡崎、平成 19 年 11 月 1-2 日
56. Taku Hirata, He Xin, Ellapan Babu, Takamasa Ishikawa, Tomoyoshi Soga, Hitoshi Endou and Yoshikatsu Kanai: Molecular Identification and Functional Characterization of a Novel Organic Anion Transporter OATN1. American Society of Nephrology 38th Annual Renal Week Meeting, San Francisco, U.S.A, Nov 4, 2007.
57. Ljubojevic M¹, Breljak D¹, Balen D¹, Brzica H¹, Zlender V¹, Anzai N, Sabolic I¹ (¹ Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia): Cadmium, mercury and cisplatin downregulate the expression of rat renal organic anion transporters Oat1 and Oat3. American Society of Nephrology Renal Week 2007, San Francisco, 平成 19 年 11 月 2-5 日
58. Hrvoje Brzica¹, Davorka Breljak¹, Marija Ljubojevic¹, Daniela Balen¹, Vilim Zlender¹, Marija Kusan¹, Naohiko Anzai, Ivan Sabolic¹ (¹Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia): The Expression of Organic Anion Transporter Oat5 in Rat

- Kidneys is Gender-dependent. American Society of Nephrology Renal Week 2007, San Francisco, 平成 19 年 11 月 2-5 日
59. Zlender V¹, Ljubojevic M¹, Balen D¹, Breljak D¹, Brzica H¹, Fuchs R¹, Anzai N, Sabolic I¹ (¹Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia) (ポスター): Dual Effect of Ochratoxin A (OTA) on the Renal Expression of Organic Anion Transporters Oat1 and Oat3 in Rats. American Society of Nephrology Renal Week 2007, San Francisco, 平成 19 年 11 月 2-5 日
60. 平田 拓, 高藤和輝, 安西尚彦, 金井好克: 糖尿病モデルマウスを用いた網羅的遺伝子発現プロファイリング (エネルギー代謝に関わる新規トランスポーター遺伝子の探索). 第 36 回杏林医学会, 東京, 平成 19 年 11 月 17 日
61. 三浦大作、安西尚彦、金井好克: 有機アニオントランスポーター hOAT1 および hOAT3 を介したパラアミノ馬尿酸の取込みに対する血清タンパク質の影響、第 36 回杏林医学会総会、三鷹、平成 19 年 11 月 17 日
62. Sunena Srivastava、安西尚彦、金井好克: Interaction of human renal organic anion transporters with contrast media、第 36 回杏林医学会総会、三鷹、平成 19 年 11 月 17 日
63. 安西尚彦、Sunena Srivastava、Suparat Khamdang、山西 藍¹、宮尾和洋、遠藤仁¹ (¹株式会社ジェイファーマ) (ポスター) : 腎有機酸トランスポーター OATs と flavonoids の相互作用、第 5 回日本予防医学会学術総会、指宿、平成 19 年 11 月 24 日
64. 福富 俊之, 安西 尚彦, 木村 徹, 金井 好克: PDZK1 を介した有機溶質の再吸収を司る輸送分子複合体形成の可能性. トランスポーター研究会第一回九州部会, 熊本, 平成 19 年 11 月 24 日
65. 安西尚彦、Ho Jung Shin、何 新、金井好克¹、遠藤 仁 (¹大阪大学大学院医学系研究科) (ポスター) : 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーター OAT7 の同定、トランスポーター研究会第一回九州部会, 熊本, 平成 19 年 11 月 24 日
66. 福富 俊之, 安西 尚彦, 木村 徹, 金井 好克: PDZK1 による尿酸トランスポーター URAT1 と有機酸トランスポーター OAT4 の分子集積. トランスポーター研究会第一回東北部会、仙台、平成 19 年 11 月 25 日
67. 安西尚彦: トランスポーター研究の未来とトランスポーター研究会の役割、トランスポーター研究会第一回東北部会、仙台、平成 19 年 11 月 25 日
68. 俣田秀章¹、佐藤正延¹、Yan Li¹、三上健太郎¹、安西尚彦、白坂善之¹、玉井郁巳

- ¹ (¹東京理科大学薬学部) : 尿酸動態に關与する有機アニオントランスポーターOATの輸送特性、トランスポーター研究会第一回東北部会、仙台、平成19年11月25日
69. 安西尚彦、Ho Jung Shin、何 新、金井好克¹、遠藤 仁 (¹大阪大学大学院医学系研究科) (ポスター) : 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7の同定、トランスポーター研究会第一回東北部会、仙台、平成19年11月25日
70. 安西尚彦、金井好克、遠藤 仁 : 腎臓の尿酸トランスポートソーム : 病態の理解に向けて、第29回薬物と生体膜の相互作用シンポジウム 特別企画2 : 生体膜輸送分子研究の新展開 : 基礎から創薬、産業へ、仙台、平成19年11月27日
71. 佐藤正延¹、Yan Li¹、俣田秀章¹、福士剛純¹、三上健太郎¹、柳澤勇一¹、安西尚彦、白坂善之¹、玉井郁巳¹ (¹東京理科大学薬学部) : 尿酸トランスポーター活性と血清尿酸値変動、第29回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム、仙台、平成19年11月27日
72. 安西尚彦、Ho Jung Shin、何 新、金井好克¹、遠藤 仁 (¹大阪大学大学院医学系研究科) (ポスター) : 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7の同定、トランスポーター研究会第一回関東部会、横浜、平成19年12月10日
73. 平田 拓, Kanokporn Phetdee, Ellappan Babu, 野村一也, 三谷昌平, 安藤恵子, 金井好克 : 線虫アミノ酸輸送体の機能制御における糖タンパク質の関与. 2008糖鎖全体会議, 大阪, 平成20年1月21, 22日
74. 池淵祐樹¹、高田龍平¹、伊藤晃成¹、吉門崇¹、安西尚彦、金井好克、鈴木洋史¹ : (¹東京大学医学部附属病院薬剤部) : MDR3/ABCB4 共役因子としての RACK1 の同定、特定領域研究「G蛋白質シグナル」&「膜輸送複合体」合同若手ワークショップ2008, 箱根, 平成20年1月26-28日
75. 平田 拓, 武藤朋子, Ellappan Babu, 金 春姫, 金井好克 : 網羅的遺伝子発現プロファイリングによるエネルギー代謝に関わる新規トランスポーター遺伝子の探索. 特定領域研究「G蛋白質シグナル」&「膜輸送複合体」合同若手ワークショップ2008, 箱根, 平成20年1月26-28日
76. 櫻井裕之 : GDNF ドグマへの挑戦、東大腎内分泌内科セミナー、東京、平成20年1月29日
77. 加国雅和¹、安西尚彦、大房 健² (¹株式会社フェニックスバイオ、²東和環境科学株

- 式会社プロフェニックス) : 高尿酸血症を示すヒト肝細胞キメラマウスの特徴、第 41 回日本痛風・核酸代謝学会総会、福井、平成 20 年 2 月 14 日
78. 安西尚彦、三浦大作、遠藤 仁 : ヒト尿酸トランスポーターURAT1 によるオロト酸輸送、第 41 回日本痛風・核酸代謝学会総会、福井、平成 20 年 2 月 15 日
79. 浦野和子¹、谷口敦夫¹、安西尚彦、山中 寿¹、遠藤 仁、鎌谷直之¹ (¹東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター) : 尿酸輸送体 NPT1 の血清尿酸値と痛風発症との相関に関する検討、第 41 回日本痛風・核酸代謝学会総会、福井、平成 20 年 2 月 15 日
80. 佐藤正延¹、安西尚彦、玉井郁巳¹ (¹東京理科大学薬学部) : 薬物による血清尿酸値変動機構の解明、第 41 回日本痛風・核酸代謝学会総会、福井、平成 20 年 2 月 15 日
81. 安西尚彦 : トランスポーター研究の展開 : トランスポートソーム、特定領域研究「細胞感覚」第 2 回「若手の会」、福岡、平成 20 年 2 月 19 日
82. 安西尚彦、坂田 武¹、成川新一¹、武田理夫、三浦大作¹、金井好克、遠藤 仁 (¹株式会社富士バイオメディックス) : 有機カチオントランスポーターOCT3 (*SLC22A3*) 遺伝子多型 (SNPs) とヒスタミン輸送活性、第 81 回日本薬理学会年会、横浜、平成 20 年 3 月 17 日
83. 安西尚彦、何 新、上野 剛、Ho Jung Shin、宮尾和洋、山西 藍、遠藤 仁、金井好克 : 新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7 による短鎖脂肪酸酪酸輸送、第 81 回日本薬理学会年会、横浜、平成 20 年 3 月 19 日
84. Sunena Srivastava、安西尚彦、Vedran Micek¹、Hrvoje Brzica¹、Hermann Koepsell²、Ivan Sabolic¹ (¹ Unit of Molecular Toxicology, IMI, Croatia、²Department of Anatomy and Cell Biology, University of Wuerzburg, Germany) : コハク酸および α ケトグルタル酸に対する GPCR(GPR91, GPR99) のヒト腎臓における局在、第 81 回日本薬理学会年会、横浜、平成 20 年 3 月 19 日
85. 安西尚彦、Ho Jung Shin、金井好克 : 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7 の同定、第 85 回日本生理学会年会、新宿、平成 20 年 3 月 25 日
86. 山西 藍、安西尚彦、Sunena Srivastava、何 新、宮内正二¹、Vadivel Ganapathy²、金井好克 (¹北海道大学大学院、²University of Georgia, Atlanta) : マルチバレント PDZ タンパク質 PDZK1 は Na^+ 依存性モノカルボン酸トランスポーターSMCT1 の結合タンパク質である、第 85 回日本生理学会年会、新宿、平成 20 年 3 月 27 日

II. 論 文

1. Maeshima A, Sakurai H, Choi Y, Kitamura S, Vaughn DA, Tee JB, Nigam SK. Glial cell-derived neurotrophic factor independent ureteric bud outgrowth from the Wolffian duct. *J Am Soc Nephrol*. 18: 3147-3155, 2007.
2. Rosines E, Sampogna RV, Johkura K, Vaughn DA, Choi Y, Sakurai H, Shah MM, Nigam SK. Staged in vitro reconstitution and implantation of engineered rat kidney tissue. *Proc Natl Acad Sci USA* 104: 20938-20943, 2007.
3. Monte JC, Sakurai H, Bush KT, Nigam SK. The developmental nephrome: systems biology in the developing kidney. *Curr Opin Nephrol Hypertens*. 16:3-9, 2007
4. Kimura T, Allen PB, Nairn AC, Caplan MJ: Arrestins and spinophilin competitively regulate Na⁺,K⁺-ATPase trafficking through association with a large cytoplasmic loop of the Na⁺,K⁺-ATPase. *Mol Biol Cell*.18: 4508-18, 2007
5. Kimura T, Perry J, Anzai N, Pritchard JB, Moaddel R. Development and characterization of immobilized human organic anion transporter-based liquid chromatographic stationary phase: hOAT1 and hOAT2. *Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci*, 859: 267-271. 2007
6. Anzai N, Endou H. Drug Discovery for Hyperuricemia. *Expert Opin Drug Discov* 2: 1251-1261, 2007.
7. Cunningham R, Brazie M, Kanumuru S, E X, Biswas R, Wang F, Steplock D, Wade JB, Anzai N, Endou H, Shenolikar S, Weinman EJ. Sodium-hydrogen exchanger regulatory factor-1 interacts with mouse urate transporter 1 to regulate renal proximal tubule uric acid transport. *J Am Soc Nephrol*. 18:1419-1425, 2007
8. Shin HJ, Anzai N, Enomoto A, He X, Kim DK, Endou H, Kanai Y. Novel Liver-specific Organic Anion Transporter OAT7 that Operates the Exchange of Sulfate Conjugates for Short Chain Fatty Acid Butyrate. *Hepatology* 45:1046-1055, 2007
9. Anzai N, Kanai Y, Endou H. New Insight into Renal Transport of Urate. *Curr Opin Rheumatol*. 19:151-157, 2007
10. Nilwarangkoon S, Anzai N, Shiraya K, Yu E, Islam R, Cha SH, Onozato ML, Miura D, Jutabha P, Tojo A, Kanai Y, Endou H. Role of mouse organic anion transporter 3 (mOat3) as a basolateral prostaglandin E2 transport pathway. *J Pharmacol Sci*. 103:48-55, 2007
11. Ljubojevic M, Balen D, Breljak D, Kusan M, Anzai N, Bahn A, Burckhardt G, Sabolic I.

Renal expression of organic anion transporter OAT2 in rats and mice is regulated by sex hormones. *Am J Physiol Renal Physiol.* 292:F361-F372, 2007

12. 安西尚彦、遠藤 仁：連載「腎臓の有機溶質・薬物トランスポーター」第一回、トランスポーター総論、高尿酸血症と痛風、15:72-75, 2007
13. 福島淳一、安西尚彦、坂田 武、岡安 勲、金井好克、遠藤 仁、呉屋朝幸：胃癌におけるアミノ酸トランスポーターLAT1(L-type amino acid transporter 1)および4F2hc発現についての免疫組織化学的検討、診断病理、24:283-288, 2007

Ⅲ. 著書

1. Sakurai H, Nigam SK (2007) Molecular and cellular mechanisms of kidney development. In Alpern R, Herbert S eds. Seldin and Giebisch's The Kidney: Physiology and Pathophysiology, 4th Edition. Academic Press.

臨床検査医学教室

平成 19 年度

口演

1. 峯佳毅¹, 森秀明¹, 西川かおり¹, 松本茂藤子¹, 小樽二世¹, 本田普久¹, 岸野智則, 島田都², 石田均¹, 高橋信一¹(¹杏林大・医・第三内科, ²株式会社フィリップス エレクトロニクス ジャパン メディカル システムズ):腹部領域における Volumetric Imaging の有用性. 第 80 回日本超音波医学会学術集会, 鹿児島, 平成 19 年 5 月 20 日.
2. 横山琢磨¹, 和田裕雄¹, 皿谷健¹, 倉井大輔¹, 宇留間友宣¹, 石井晴之¹, 青島正大¹, 岡崎充宏, 渡邊卓, 後藤元¹(¹杏林大・医・第一内科):当院における多剤耐性肺炎球菌(multidrug resistant *Streptococcus pneumoniae* MDRSP)の薬剤耐性年次変化の検討. 第 55 回日本化学療法学会総会, 仙台, 平成 19 年 6 月 1 日.
3. 有賀俊之:心臓超音波検査の実際. 多摩地区放射線科勉強会, 東京, 平成 19 年 6 月 28 日.
4. Ohtsuka K, Ohnishi H, Morita K, Chiba M, Ogura W, Matsushima S, Kishino T, Goya T¹, Watanabe T(¹Department of Surgery, Kyorin University):Relationship between tyrosine kinase domain gene mutation of epidermal growth factor receptor and respiratory function in non-small cell lung cancer. 12th World Conference on Lung Cancer.Seoul,Sep.2-6, 2007.
5. 有賀俊之:僧帽弁疾患. 心エコー研修会, 東京, 平成 19 年 9 月 2 日.
6. 米山正芳:卵円形脂肪体の鑑別と意義. 尿検査フォーラム大阪 2007, 大阪, 平成 19 年 9 月 22 日.
7. 峯佳毅¹, 森秀明¹, 塚田幾太郎¹, 本田普久¹, 小樽二世¹, 岸野智則, 西川かおり¹, 石田均¹, 高橋信一¹(¹杏林大・医・第三内科):iU-22(Philips)を用いたソナゾイド造影超音波検査の経験. 第 23 回超音波ドプラ研究会, 東京, 平成 19 年 9 月 22 日.
8. 石井隆浩, 千葉直子, 江上照夫, 大西宏明, 渡邊卓:Dimension RxL-HM によるタクロリムス試薬の基礎的検討. 第 39 回日本臨床検査自動化学会, 横浜, 平成 19 年 9 月 28 日.
9. 大西宏明, 吉野浩¹, 滝智彦², 滝田順子³, 井田孔明³, 康勝好³, 古屋彩夏³, 谷脇雅史⁴, 林泰秀⁵, 渡邊卓, 別所文雄¹(¹杏林大・医・小児科, ²京都府立医大・医・分子病態検査医学, ³東京大・医・小児科, ⁴京都府立医大・医・血液腫瘍内科学, ⁵群馬県立小児医療センター):MLL-p300 キメラ遺伝子を認めた二次性白血病の 1 例. 第 49 回日本臨床血液学会総会, 横浜, 平成 19 年 10 月 12 日.
10. 川野詳子, 岸野智則, 森秀明¹, 清水雪絵², 横山琢磨², 西川かおり¹, 峯佳毅¹, 松本茂藤子¹, 小樽二世¹, 本田普久¹, 塚田幾太郎¹, 司茂幸英, 後藤元², 高橋信一¹, 渡邊卓(¹杏林大・医・

- 第三内科,² 杏林大・医・第一内科):肝および脾内に短期間に同時多発した仮性動脈瘤の一例.
第 19 回日本超音波医学会関東甲信越地方会学術集会, 東京, 平成 19 年 11 月 10 日.
11. 櫻井美智恵, 米山正芳, 原田喜代子, 江上照夫, 渡邊卓:サムゾン液による髄液中細胞の保存性について. 関東甲信地区医学検査学会, 軽井沢, 平成 19 年 11 月 10 日.
12. 宮城博幸:救急医療における薬物分析検査の現状. 第 25 回臨床化学会関東支部例会, 東京, 平成 19 年 11 月 15 日.
13. 石川真美, 森田恵子, 司茂幸英, 石山陽事¹, 和田裕雄², 渡邊卓(¹ 杏林大・保・臨床生理学・医用応用工学,² 杏林大・医・第一内科):パルスオキシメータによる呼吸機能検査のモニタリング. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
14. 堀田一, 関口久美子, 大西宏明, 渡邊卓:輸血管理料取得と本学における現状. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
15. 佐藤真由美, 原田喜代子, 米山正芳, 江上照夫, 渡邊卓:サムゾン液による骨髄中細胞の保存性について. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
16. 渡邊卓, 呉屋朝幸¹, 大西宏明, 大塚弘毅, 岸野智則(¹ 杏林大・医・外科):肺癌幹細胞の同定と分子生物学的特質の研究—耐性克服による新たな肺癌治療に向けて—. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
17. 東克巳¹, 西村伸大¹, 関根名里子¹, 渡邊卓, 大西宏明, 高山信之²(¹ 杏林大・保・臨床血液,² 杏林大・医・第二内科):新パラメーター考案によるフローサイトメトリー(FCM)での造血幹細胞の細胞特性に関する研究. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
18. 米谷正太, 岡崎充宏, 福川陽子, 松島早月, 大塚弘毅, 岸野智則, 司茂幸英, 江上照夫, 大西宏明, 渡邊卓:血液培養陽性ボトルからの集菌による迅速な菌種同定および薬剤感受性試験に関する検討. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成 19 年 11 月 23 日.
19. 宮城博幸, 梶原正弘¹, 司茂幸英, 江上照夫, 大西宏明, 山口芳裕², 渡邊卓(¹ 杏林大・医・法医学,² 杏林大・医・救急医学):LC/MS ライブラリーとライブラリー検索ソフトを活用した LC/MS による薬物スクリーニング法の検討～第 2 報～. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成 19 年 11 月 24 日.
20. 大西宏明, 神田橋宏治¹, 川村眞智子², 大塚弘毅, 松島早月, 岸野智則, 渡邊卓(¹ 東京日立病院内科,² 東京都立駒込病院小児科):経過中に T674I 変異を生じ、imatinib 抵抗性となった FIP1L1-PDGFR α 陽性慢性好酸球性白血病の 1 例. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成 19 年 11 月 24 日.
21. 浦田毅, 高野麻衣子, 持田由美子, 吉田聖子, 岡崎充宏, 司茂幸英, 石山陽事¹, 岸野智則, 大

- 西宏明, 渡邊 卓¹(杏林大・保・臨床工学科・医用応用工学): 肘部における正中神経と主要皮静脈、上腕動脈の位置に関する検討—超音波診断装置を用いて—. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成 19 年 11 月 24 日.
22. 福川陽子, 岡崎充宏, 大楠清文¹, 米谷正太, 松島早月, 大塚弘毅, 岸野智則, 司茂幸英, 江上照夫, 高山信之², 大西宏明, 江崎孝行¹, 渡邊卓¹(岐阜大学大学院医学研究科再生分子統御学講座病原体制御学分野,² 杏林大・医・第二内科): 急性骨髄性白血病の化学療法中に血液培養から *Rothia mucilaginosa* が分離された 1 症例. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成 19 年 11 月 24 日.
23. 渡辺敬子, 岸野智則, 浦田 毅, 高野麻衣子, 岡崎充宏, 司茂幸英, 大塚弘毅, 大西宏明, 森秀明¹, 石山陽事², 渡邊 卓¹(杏林大・医・第三内科,² 杏林大・保・臨床工学科): 血中脂肪酸の組成変化と内臓脂肪厚の相関性について. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成 19 年 11 月 24 日.
24. 大塚弘毅, 大西宏明, 森田恵子, 千葉美佐紀, 小倉航, 松島早月, 岸野智則, 呉屋朝幸¹, 渡邊卓¹(杏林大・医・外科): 非小細胞肺癌における上皮増殖因子受容体チロシンキナーゼドメイン遺伝子変異と呼吸機能との関係. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成 19 年 11 月 24 日.
25. 牧野博, 岡崎充宏, 福川陽子, 米谷正太, 澤田範子, 荒木光二, 宿谷菜穂子, 大西宏明, 渡邊卓: 当院において検出された *Stenotorophomonas maltophilia* の年次別薬剤耐性の動向調査. 第 19 回日本臨床微生物学会, 東京, 平成 20 年 1 月 26-27 日.
26. 米谷正太, 岡崎充宏, 福川陽子, 牧野博, 澤田範子, 宿谷菜穂子, 荒木光二, 江上照夫, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養陽性ボトルからの直接集菌による同定および薬剤感受性の試み. 第 19 回日本臨床微生物学会, 東京, 平成 20 年 1 月 26-27 日.
27. 高城靖志: 学術講演 リスクマネージメントへの取り組み～病院であった怖い話～. 第 6 回都臨技医学検査学会, 東京, 平成 20 年 2 月 3 日.

論文

1. Onishi H, Kaniyu K, Iwashita M¹, Tanaka A, Watanabe T (Department of Obstetrics/Gynecology): Fibrin monomer complex in normal pregnant woman: a potential thrombotic marker in pregnancy. *Ann Clin Biochem* 44:449-454, 2007.
2. Nakajo A, Khoshnoodi J, Takenaka H, Hagiwara E, Watanabe T, Kawakami H, Kurayama R, Sekine Y, Bessho F, Takahashi S, Swiatecka-Urban A, Tryggvason K, Yan K: Mizoribine

- corrects defective nephrin biogenesis by restoring intracellular energy balance. J Am Soc Nephrol 18:2554-2564, 2007
3. Ohara-Imaizumi M, Fujiwara T, Nakamichi Y, Okamura T, Akimoto Y, Kawai J, Mtsushima S, Kawakami H, Watanabe T, Akagawa K, Nagamatsu S: Imaging analysis reveals mechanistic differences between first- and second-phase insulin exocytosis. J Cell Biol 177:695-705, 2007
 4. 宮崎京子, 米山正芳, 高橋美穂, 江上照夫, 大西宏明, 渡邊卓: タンパク分画用の新規セルロースアセテート膜、セレカ VSP の性能評価—全自動電気泳動装置(常光 CTE8000)による臨床検査タンパク性能評価. 生物物理化学 51:113-117, 2007.
 5. 宮城博幸, 梶原正弘¹, 大西宏明, 山口芳弘², 渡邊卓(¹杏林大・医・法医学, ²杏林大・医・救急医学): QTRAP LC/MS/MS による多剤同時スクリーニング分析の試み. 臨床病理 55: 309-318, 2007.
 6. 喜多秀文¹, 輿石義彦², 増井一夫², 藤田敦², 大塚弘毅, 古屋敷剛², 中里陽子², 武井秀史², 呉屋朝幸²(¹結核予防会複十字病院・呼吸器外科, ²杏林大・医・外科): I期非小細胞肺癌例における術後再発の危険因子. 胸部外科 60:883-887, 2007.
 7. 宮城博幸, 大西宏明, 渡邊卓: 薬毒物検査の現状と課題. 検査と技術 35 :363-365, 2007
 8. 米山正芳, 渡邊卓: 尿沈渣検査の自動化の効果的な運用法 尿沈渣検査の自動化の効果的な運用法 システムロジックについて. 臨床病理レビュー 140:150-154, 2007.
米山正芳, 渡邊卓: 穿刺液検体の比重と総蛋白の関連性. 臨床病理レビュー 140:183-184, 2007.
 9. 渡邊卓: Laboratory Practice 血液 採血の現況と問題点 JCCLS「標準採血法ガイドライン」. 検査と技術 35:689-691, 2007.
 10. 大西宏明: Laboratory Practice 血液 採血の現況と問題点 採血手技の実際. 検査と技術 35: 791-795, 2007.

著書

1. 岸野智則, 渡邊 卓: IV. 救急救命で遭遇する疾患 4. 消化器系疾患. 救急救命レビューノート. 田中秀治, 徳永尊彦編集. 東京, 文光堂, 2008. p. 122-125.

心臓血管外科業績

I. 口演

1. 戸成邦彦:実験的肺高血圧症モデルによるアデノシンの効果:クリーゼに有効か? . 第110回日本小児科学会学術集会、京都、平成19年4月22日.
2. 上原一郎、窪田 博、布川雅雄、細井 温、藤木達雄、戸成邦彦、遠藤英仁、土屋博司、高橋直子、高橋範子、須藤憲一、大和恒恵¹、中林公正¹ (¹杏林大・医・リウマチ膠原病科):MR,TR,肺塞栓、腎梗塞、脳梗塞、感染性内腸骨動脈瘤を呈した VSD(Ⅱ)、IE の一症例. 第142回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成19年6月2日.
3. 小島洋平、窪田 博、藤木達雄、戸成邦彦、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一、米良尚晃¹、吉野秀朗¹ (¹杏林大・医・循環器内科):Intracardiac calcinosis の一例. 第142回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成19年6月2日.
4. 斉藤政仁¹、木山 宏¹、垣 伸明¹、窪田 博、今関隆雄²(¹石心会狭山病院・心臓血管外科、²獨協医科大学越谷病院・心臓血管外科) 急性大動脈解離遠位弓部エントリーに対するオープンステントグラフト法によるエントリー閉鎖術. 第142回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成19年6月2日.
5. Norimichi Kawashima¹, Yoshihiro Niikura¹, Masaki Saitou¹, Hiroshi Kubota, Kenichi Sudo (¹Department of Biomedical engineering, Toin University of Yokohama): Preoperative 3D plastic replica for aortic arch aneurism surgery planning with stereolithography. 53ed American Society for Artificial Internal Organs. 2007.6.7, Chicago.
6. 脊山英徳¹、栗田浩樹¹、窪田 博、西山和利¹、山田 深¹、松本由美¹、下斗米友美¹、門馬 博¹、塩川芳昭²、山口芳裕¹(¹杏林大・脳卒中センター、²杏林大・医・脳神経外科):心臓血管外科手術を要した脳梗塞の2症例. 第35回多摩脳神経外科懇話会、武蔵野、平成19年6月7日.

7. Hiroshi Kubota: Fibrin glue technique for cardiothoracic surgeons. Biologic glue-molded “bio-mini-paddle electrode used for atrial and ventricular pacing and defibrillation” International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery. 10th Annual Scientific Meeting. Invited lecture 2007.6.8, Rome

8. Yutaka Hosoi, M Nunokawa, N.Takahashi, N.Takahashi, H.Kubota, T.Fujiki , K.Tonari, H Endo, H. Tsuchiya and K.Sudo : Process of thrombus regression among different venous segments after deep vein thrombosis. Asian Chapter Meeting of the IUP 静脈学会 2007.6.18~20, Kyoto.

9. 窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一、池田隆徳(1 杏林大・医・循環器内科): Biological Glue を用いた心臓手術後心房心室除細動、ペーシング用見にバトルの開発. 第 18 回多摩不整脈研究会、武蔵野、平成 19 年 6 月 30 日.

10. 土屋博司、須藤憲一、窪田 博、遠藤英仁: 寒冷凝集素症を合併した右心系真菌性心内膜炎の1例. 東京胸部外科懇話会、東京、平成 19 年 7 月 21 日.

11. 岩畔哲也、窪田 博、土屋博司、遠藤英仁、戸成邦彦、須藤憲一: 上行大動脈置換術後人工血管感染を呈し再人工血管置換術にて救命できた 1 例. 第 143 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、つくば、平成 19 年 9 月 1 日.

12. 山田宗明、窪田 博、土屋博司、遠藤英仁、戸成邦彦、須藤憲一: 胸腹部置換術後 A 型大動脈解離に対し open stent 併用全弓部置換術を施行した 1 例. 第 143 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、つくば、平成 19 年 9 月 1 日.

13. 布川雅雄、高橋直子、高橋範子、細井 温、須藤憲一: 人工血管感染に対し、自家大腿静脈を用いて再建を行った 1 例. 第 5 回多摩血管外科研究会、立川、平成 19 年 10 月 6 日.

14. 遠藤英仁、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、土屋博司、須藤憲一：術前脳障害を合併した A 型大動脈解離の手術成績．第 48 回日本脈管学会総会、松本、平成 19 年 10 月 25 日．

15. 高橋範子、細井 温、高橋直子、布川雅雄、須藤憲一：腸腰筋膿瘍を合併した感染性腸骨動脈瘤破裂の一治験例．第 48 回日本脈管学会総会、松本、平成 19 年 10 月 25 日．

16. 細井 温、小野塚温子¹、宮田哲郎¹、重松 宏²(¹東京大学・医・血管外科 ²東京医科大・外科学第二講座)：近赤外線分光法による血管疾患への臨床応用．第 14 回医用赤外線分光研究会、松本、平成 19 年 10 月 27 日．

17. 吉田裕毅、布川雅雄、細井 温、高橋直子、高橋範子、窪田 博、藤木達雄、戸成邦彦、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一：Budd-Chiari 症候群による下大静脈再狭窄例に対する血管内治療の経験．第 15 回日本血管外科学会関東甲信越地方会、大宮、平成 19 年 11 月 10 日．

18. 土屋博司、須藤憲一、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、布川雅雄、細井温、高橋直子、高橋範子、吉野秀朗¹、坂田好美¹、高山信之¹、藤野 節²(¹杏林大・医・循環器内科 ²杏林大・医・病理学)：寒冷凝集素症を合併した右心系真菌性感染性心内膜炎の 1 例．第 36 回杏林医学会総会、三鷹、平成 19 年 11 月 17 日．

19. 戸成邦彦、関口昭彦¹、高岡哲弘¹、須藤憲一、窪田 博、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、布川雅雄、細井 温、高橋直子、高橋範子(¹国立成育医療センター・心臓血管外科)：新生児期の先天性完全房室ブロックに対するペースメーカー 5 例の治療経験．第 36 回杏林医学会総会、三鷹、平成 19 年 11 月 17 日．

20. 宮本快介、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一：Aorta-LV dehiscence をきたした人工弁心内膜炎に対して弁輪パッチ形成、ステントレス生体弁置換を行った一例．第 144 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成 19 年 12 月 1 日．

21. 土屋博司、須藤憲一、窪田 博、戸成邦彦、遠藤英仁、吉野秀朗¹、高山信之¹、坂田好美¹、中村健太郎¹、藤野 節²(¹杏林大・医・循環器内科、²杏林大・病理部):寒冷凝集素症を合併した右心系真菌性感染性心内膜炎の1例. 第144回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成19年12月1日.

22. 土屋博司、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、須藤憲一、池田隆徳¹、柚須悟¹、中村健太郎¹、吉野秀朗¹、高橋栄治²(¹杏林大・医・循環器内科、²東京医科大学八王子医療センター・循環器内科):AVNRTを併発したASDに対して、ASDパッチ閉鎖および術中凍結アブレーションを施行した一例. 第19回多摩不整脈研究会、三鷹、平成20年1月19日.

23. 遠藤英仁、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、土屋博司、金田由香子、須藤憲一:腕頭動脈高度狭窄、左鎖骨下動脈閉塞、上行弓部大動脈瘤、大動脈弁閉鎖不全を呈した大動脈炎症候群に対する大動脈弓部および大動脈弁置換術. 第145回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成20年2月9日.

24. 桑原彩子、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一: Intracardiac mobile calcinosis を伴った Cardiac calcinosis の一例. 第145回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成20年2月9日.

25. 遠藤英仁、窪田 博、藤木達雄、戸成邦彦、土屋博司、須藤憲一:A型急性大動脈解離症例における病理学的遠隔成績の検討. 第38回日本心臓血管外科学会学術総会、福岡、平成20年2月20日.

26. 遠藤英仁、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、土屋博司、金田由香子、須藤憲一:腕頭動脈高度狭窄、左鎖骨下動脈閉塞、上行弓部大動脈瘤、大動脈弁閉鎖不全症を呈した大動脈炎症群に対し大動脈弓および大動脈弁置換術を施行した1例. 第145回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、東京、平成20年2月20日.

27. 土屋 博司、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、須藤憲一 Intracardiac mobile calcinosis の2例. 第5回多摩心臓外科学会、立川、平成20年3月15日.

Ⅱ. 論文

1. 細井 温:肺塞栓症診療の最前線 肺塞栓症予防のための周術期管理 *Angiology Frontier* 6:2,157~163,2007.6.

Ⅲ. 著書

1. 須藤憲一:心筋梗塞後心腔内血栓症 循環器症候群(第2版)Ⅱーその他の循環器疾患を含めてー IV.冠動脈・静脈疾患 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.5、2007年9月28日. p169~172.
2. 細井 温:下肢静脈瘤 *ドクターサロン* 51(9):2007,659-662.

II.論文

(平成 19 年度追加)

1. Nishiwaki Y¹, Kikuchi Y¹, Araya K², Okamoto M³, Miyaguchi S⁴, Yoshioka N¹, Shimada N¹, Nakashima H¹, Uemura T, Omae K¹ & Takebayashi T¹ (¹Keio Univ., ²Harumaso Hospital, ³Health and Welfare Division, Kurabuchi Branch Office, ⁴Usui Hospital) : Association of Thoracic Kyphosis with Subjective Poor Health, Functional Activity and Blood Pressure in the Community-Dwelling Elderly. Environmental Health and Preventive Medicine 12 : 246-250, 2007.

救急医学教室

I. 口演

——平成 19 年度業績追加

1. 中江晴彦¹, 嶋津岳士¹, 宮内洋, 諸角純也², 太田祥一², 山口芳裕, 北野光秀³, 池内尚司⁴, 岸川正信⁵, 上山昌史⁶, 杉本壽¹ (¹大阪大学救急医学, ²東京医大・救急医学, ³済生会神奈川県病院救急部, ⁴大阪府立急性期総合医療センター救命救急センター, ⁵福岡県済生会福岡総合病院救急部, ⁶社会保険中京病院救急科): 外傷性脾損傷に対する脾温存治療は長期予後を改善するか. 第 35 回日本救急医学会総会・学術集会, 大坂, 平成 19 年 10 月 16 日 (火).
2. 嶋津岳士¹, 中江晴彦¹, 諸角純也², 宮内洋, 太田祥一², 山口芳裕, 北野光秀³, 岸川正信⁴, 上山昌史⁵, 池内尚司⁶, 行岡哲男², 杉本壽¹ (¹大阪大学救急医学, ²東京医大・救急医学, ³済生会神奈川県病院救急部, ⁴福岡県済生会福岡総合病院救急部, ⁵社会保険中京病院救急科, ⁶大阪府立急性期総合医療センター救命救急センター): 外傷性脾損傷における免疫能の変化と非温存療法の効果. 第 20 回日本外科感染症学会学術集会, 東京, 2007 年 11 月 8-9 日.
3. 関谷繁樹¹, 野沢有二¹, 亀田進吾¹, 佐野浩志¹, 山田賢治 (¹赤心堂病院整形外科): リウマチ手に対する MES 社製 MP 人工関節の小経験. 第 42 回埼玉手の外科研究会, 埼玉, 平成 19 年 3 月 10 日 (土).
4. 山田賢治, 関谷繁樹¹, 吉澤貴弘¹, 亀田進吾¹, 野沢有二¹, 山口芳裕 (¹赤心堂病院整形外科): 尺骨鉤状突起単独骨折による肘関節亜脱臼 1 例. 第 42 回埼玉手の外科研究会, 埼玉, 平成 19 年 3 月 10 日 (土).

II. 論文

——平成 19 年度業績追加

1. 亀田進吾¹, 関谷繁樹¹, 山田賢治 (¹赤心堂病院整形外科): 橈骨頭単独脱臼 1 例. 日本肘関節学会雑誌 14 (2): 197-199, 2007.

III. 著書

——平成 19 年度業績追加

1. 松崎志穂里, 山口芳裕: 7. DMAT の概要. 救急医療の基本と実際 精神・中毒・災害. 太田祥一, 行岡哲男編. 東京, 荘道社, 2007. p. 238-242.
2. 山田賢治, 関谷繁樹¹, 梅垣修, 山口芳裕, 島崎修次 (¹赤心堂病院整形外科): 四肢・骨盤外

- 傷. 救急医学 31 (6) : 665-675, 2007.
3. 福島秀起, 山口芳裕 : TAE (経カテーテル的動脈塞栓術). 救急医学 31 (8) : 877-881, 2007.
 4. 庄司高裕, 山口芳裕 : 広範囲熱傷の感染症管理. 救急医学 31 (10) : 1220-1224, 2007.
 5. 小泉健雄, 福島秀起, 山口芳裕 : 胸部外傷 特異な経過をたどった胸部外傷の 1 例. 救急医学 31 (12) : 1566-1567, 2007.
 6. 宮内洋, 山口芳裕, 島崎修次 : 体液変動. 救急医学 31 (7) : 754-757, 2007.
 7. 後藤英昭 : 気道と呼吸. 救急・集中治療 Q&A とケーススタディで学ぶ 重症熱傷の初期診療
上山昌史, 松村一特集編集, 東京, 医学書院 19 (9・10) : 1075-1077, 2007.

IV. その他

——— 平成 19 年度業績追加

1. 災害時における消防と医療の連携に関する検討会 (山口芳裕 : 災害時における消防と医療の連携に関する検討会ワーキンググループ 構成員) : 平成 19 年度 災害時における消防と医療の連携に関する検討会 報告書. (総務省消防庁) 2008 年 3 月.
2. 島崎修次 (分担研究者), 宮内洋 (研究協力者) : 分担研究報告 小児救急における 3 次救急医療についての研究. 厚生労働科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合研究事業) 小児救急のあり方に関する研究 平成 19 年度 研究報告書. (主任研究者衛藤義勝)p. 29-36. 2008 年 3 月.

整形外科教室

論文

(平成 19 年度追加)

1. 太田道紀, 里見和彦, 滝徳宗, 高倉基, 相川大介: 脊髄誘発電位による胸髄機能診断の実際-病巣高位診断の可能性. 脊髄機能診断 29: 111-115, 2007.
2. 五十嵐一峰, 渋谷賢¹, 佐野秀仁, 里見和彦, 大木紫¹(¹杏林大・医・生理学): リーチング運動を用いた上肢近位筋運動の新しい解析法. 脊髄機能診断 29: 97-104, 2007.

病理学教室

口演

1. 小関達郎¹, 井手久満¹, 寺戸雄一, 斉藤恵介¹, 常盤紫野¹, 西尾浩二郎¹, 吉井隆¹, 磯谷周治¹, 上山裕¹, 武藤智¹, 村哲夫², 堀江重郎¹(¹帝京大・医・泌尿器科, ¹帝京大・医・外科病理): 副腎癌における新しい germ line mutation p53-P177R の同定. 第 591 回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成 19 年 9 月 20 日.
2. 村田憲彦¹, 榎本香織¹, 小田金哲広¹, 板谷直¹, 林建二郎¹, 多武保光宏¹, 野田治久¹, 藤森雅博¹, 宍戸俊英¹, 桶川隆嗣¹, 奴田原紀久雄¹, 東原英二¹, 寺戸雄一(¹杏林大・医・泌尿器科): 腎盂内反腫瘍の一例. 第 92 回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成 19 年 11 月 30 日.

著書

1. 寺戸雄一: 第 17 章下部尿路および男性生殖器. ルービンカラー病理学 Q&A. 坂本穆彦監訳. 丸善, 東京, 2008. p.223-236.